『若い躍動が郷土と旭川会を元気に!』

Vol.39

東京旭川会 会報 なごやかまど

第39号：平成31年（2019）3月29日発行
発　行：東京旭川会　〒359-0041
埼玉県所沢市中新井4-24-3
（高木宏明）
TEL／FAX：042-942-8455
e-mail：asahikawakai_tokyo@yahoo.co.jp
編　集：東京旭川会広報チーム

＊【予告】本年度第43回の総会・懇親会は、10月26日（土）午後5時からの予定です。

第42回東京旭川会総会・懇親会のご報告

2018年10月27日（土）午後5時より、ハイアット・リージェンシー東京で開催されました。出席者は会員121名、来賓・協賛関係16名、合計137名でした。

▲笠木旭川市議会議長の発声による乾杯（旭川の地酒　男山・高砂・大雪）で第42回の懇親会がスタートしました。毎回工夫を凝らす懇親会。若い人の参加もあって今回は以前にも増して積極的な交流があったように思います。この熱気を次回にも、次の代にもつなげて行きたいと思います。

日時／平成30年10月27日（土）17時～20時　総会・懇親会会場／ハイアットリージェンシー東京　地下1階『桃山』東京都新宿区西新宿2－7－2　TEL03－3348－1234

総会では、平成29年の事業報告・決算報告、会計監査、平成30年の事業計画・予算が承認され、次期会長（加藤桂子氏、留任）並びに監事（安井規雄氏、留任及び野作雅章氏、新任）が選任されました。

引き続き『旭川の現実（いま）をもっと知る』というテーマでパネルディスカッションを実施しました。パネリストは、表憲章旭川副市長、（株）エフ・イー代表取締役社長 佐々木通彦さん、星野リゾートOMO7旭川 総支配人 日生下和夫さん、旭川信用金庫理事長 原田 直彦さんで、旭川の現状と将来について思いを語っていただきました。続いて旭川青年会議所 石田一貫さんから「旭川市の移住促進の取組」について説明して頂きました。

懇親会では、旭川市議会 笠木議長はじめ、旭川商工会議所、旭川観光コンベンション協会、旭川市、旭川観光大使の皆さん、協賛企業他来賓の皆様を含めて137名の方々の参加を得ました。

昨年に引き続き、若い方が参加しやすいように40歳未満の方の懇親会費を半額にするなど工夫をしました。「私（達）こんな活動をしています。」コーナーでは壇上から5組の方々と西高東京同窓会の事務局長小林信雄さんが発表しました。（詳しくは3頁をご参照）

壁新聞では、旭川の話題と当会の活動報告に続き多くの旭川出身者の活動も報告されました。

その後、恒例の大抽選会など大いに楽しんでいただき盛況の内に終了することができました。

次回も引き続き多くの皆さまの参加をお待ちします。

〈会長挨拶〉

東京旭川会会長
加藤桂子

昨年の総会で会長として皆さまの信任を受け、責任の重さをひしひしと感じているところでございます。

第六代目の会長をお引き受けした時から掲げている旭川会における三つの使命について申し上げます。

その一つ目は、世代を超えて愛される旭川会を目指すことです。若い世代の方が参加しやすいように、発表の場をつくり、活動をアピールして貰うなど、世代を超えた交流を深める場を提供していくことです。

二つ目は、「私たちの旭川会」と会員の皆様に感じていただける総会運営をすることです。前回の総会では、懇親会に先立ち「故郷旭川の現実（いま）をもっともっと知る」とのテーマでパネルディスカッションを行いました。旭川で活躍されている方のお話を伺う貴重な機会を通して旭川のいま（現実）を知り、ふるさとの応援団としてエールを送り続けたいと考えています。

三つ目は「東京旭川会」の次世代への継承を進めることです。

およそ30年に渡って会の歩みに関わって感じることは、「ふるさとは遠きにありて想うもの」の時代から今は距離的にはとても近くなりました。その分、関係性が希薄になるきらいがあるのではと思います。今一度ふるさとへの想いを皆様と分かち合うことを大切にして、続けて参りたいものと努力します。皆様のご指導ご鞭撻をお願いします。

第42回 総会・懇親会

郷土を想い、様々な交流が！

いつもの顔に、いま躍動中の顔。そして初参加の顔、顔、顔。総会・懇親会は昨年に続き、新しい息吹を感じることができました。東京旭川会は世代を超えた交流を目指します。

▲表憲章旭川副市長

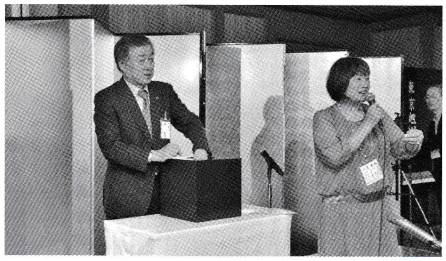
▲笠木かおる旭川市議会議長

▲松野和彦旭川商工会議所副会頭

▲新入会・初参加のみなさんが紹介されました

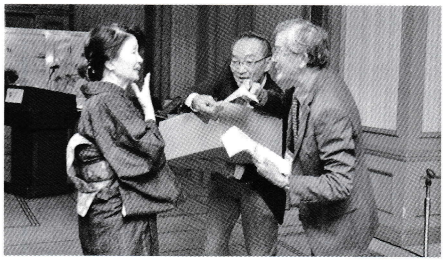
▲旭川観光大使の北の富士さんと
TVでおなじみの岩田公雄さんと記念撮影

▲旭山動物園の北極グマのぬいぐるみをはじめ賞品の数々


▲抽選札を引く表さんと司会者の三井さん

▲ホテル自慢の美味しい料理

▲ハイアットリージェンシーホテルの薄尾支配人から
ペアディナー招待券をお渡し頂く


▲当選者岡村さんに旭川のラーメン、お菓子、工芸品などが
沢山入ったふるさと便をお渡しする大場さんと佐藤さん

▲毎年恒例の旭川ラーメンのコーナー
皆さん、懐かしい味に行列

▲皆さんにお持ち帰り頂いたお土産

▲お開きで別れを惜しむ参加者の皆さん

▲立ち飲みコーナーで歓談

私（達）こんな活動をしています！

前回の41回から始まったこのコーナー。今回は前回の4組から1組増えて、以下の5組の方々に活動発表お願いしました。参加の多くの方が元気を頂けたのではと思います。

●武藤大輔・亮太さん兄弟（ミュージシャン）

兄の大輔さんは、ジャズドラマーの小山太郎氏に師事後、作曲家、自主レーベル運営活動を行いながら、バンドやシンガーソングライターとしても活動。プロデュースするユニット「NEOROMANCIA（ネオロマンシア）」では、現在までに音楽ストリーミングメディアでの再生数は100万再生を突破。現在では、ドラムボーカルバンドD－CLACX（ディークラックス）で活動し自主映画なども監督する活動もしている。

弟の亮太さんは、ベーシストとして定評のあるフィンガーベースプレイを披露している。自主映画「スイートシンギュラリティ」では、役者としても登場する。2018年11月には、冬の旭川をロケ地とした、2045年の人工知能社会を舞台にした自主映画「スイートシンギュラリティ」を上映公開した。

●浅井未歩さん（シンガーソングライター）

旭川市出身。旭川美少女図鑑のオーディションでグランプリを獲得。これまでに道内企業のTVCMタイアップとなった曲をリリースしCMには本人も出演している。

2015年には札幌でワンマンライブを大成功させるほか、道内の各種イベントへの出演多数。HBCテレビで放送されている地元旭川の魅力を伝える情報番組ではレポーターとしても活躍している。

2018年3月にNEW SINGLE「いのちの声」をリリース。札幌と旭川で開催したリリースライブは2公演がソールドアウト。大盛況となる。

また弟が知的障害を持っていることから、自閉症啓発イベントや特別支援学校などでの活動にも力を入れている。

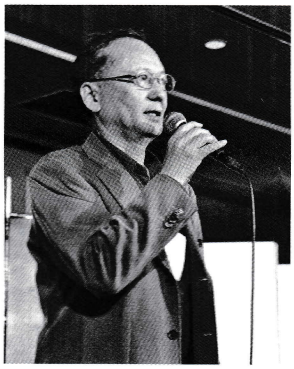
日常で沸き起こる様々な感情をもとに、聴く人の心の解放をテーマに北海道・関東を中心にライブ活動を展開している。

●長谷川幸恵さん（手書き代筆）

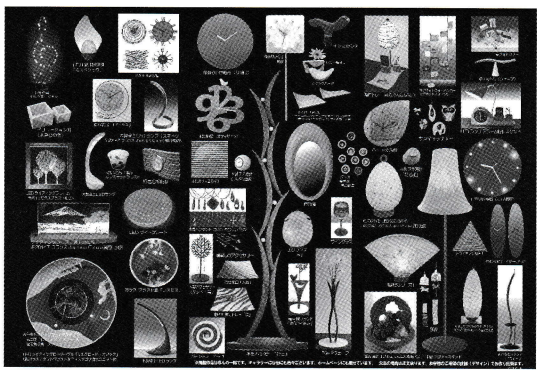
旭川市出身で手紙代筆屋を運営している。6歳から書道を習い、小学校のころは様々な賞を受賞した。道立旭川工業高校の建築科に入学後、クラーク記念国際高等学校へ編入。18歳で東京に上京。ベンチャー企業や大手製薬会社、出版社などの勤務を経て、会社員時代に築いたスキルよりも自分の好きなことを仕事にという想いと一人でも生きていけるようにと思い、手書き屋を設立した。元々手紙、手書きが好きで大切な気持ちを伝えるときには手紙を利用してきたという。

現在は3歳の男の子のシングルマザーとしても奮闘している。

●松田広昭さん（工芸家）



旭川西高20期。1971年、専門学校をへてデザイン事務所に入所。38年にわたりインダストリアルデザインに携わった後、2010年八ヶ岳南麓に、「デザイン工房 昴一」を開設し活躍しています。毎年、東京と故郷旭川にて個展開催している。



▶独自のデザインの数々（デザイン工房・昴のパンフレットより）

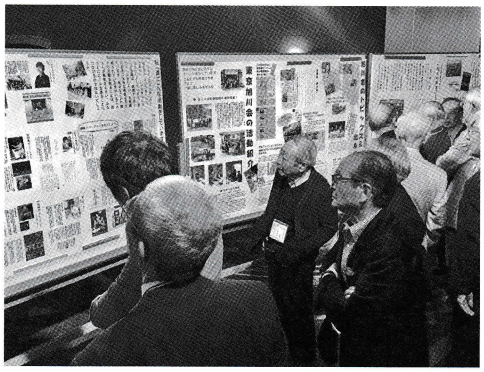
●本田蒼風さん（書家）

旭川教育大学の書道研究室で中国書道史・日本書道史などを学んだ。現在は主に東京を拠点として大筆を使用するパフォーマンス書道や筆文字デザインなどで活躍している。

その作風に共感する高砂酒造や小田急電鉄など内外の企業・団体からオファーを受けて公演やロゴデザイン制作している。本年2月からマレーシアに滞在し創作活動している。

●引き続き、旭川西高東京同窓会の事務局長小林信雄さんが、西高通信に連載した大内秀夫さんのエッセイ集「記憶の中の旭川」を紹介しました。

●会場の壁新聞では、三好のぶちかさん、井上賢さん、朝妻久実さん、安田里沙さん、西本夏生さん、米澤美玖さん、瀬川あやかさん、門馬瑠依さん、笠井崇正選手、あさひのぼるさん（漫談家）を紹介しました。

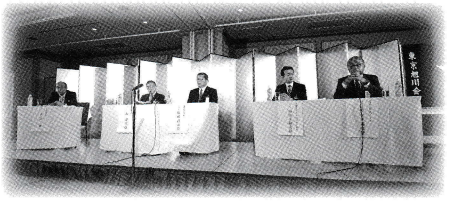


▶旭川の大吟醸酒「旭神威」のロゴ

◀本田蒼風さんに書いて頂いた東京旭川会の題字

パネルディスカッション『旭川の現実（いま）をもっと知る』

「旭川の現在を知る」というテーマで今回は3回目の集大成となります。ディスカッションを通じて、市では企業誘致に注力していることを知り、1・2回で参加したサイバートラスト社、アクサダイレクト社などが東京から旭川に進出していることを、また旭川の企業、梅光軒、ササキ工芸、今回のエフイー社などが海外に進出し頑張っていることを知りました。今回は、西川市長は選挙の為、表副市長にご参加いただきました。



はじめに

司会（荒川副会長）：それでは、早速、始めます。

佐々木：私は根菜類の洗浄・選別機械の会社を経営しています。今、スーパーに行ってニンジンやダイコンに土の付いたものを売っていますか？これは見た目じゃないのです。昭和50年代の後半ごろからスーパーに泥の付いた根物野菜が無くなってきました。これは環境負荷の問題です。北海道の土がついた大根が東京に来ると川や海はどうなるか？川や海はヘドロが溜まってしまう。それで野菜は洗って流通しようということになりました。私共は、例えば「JAようてい」向けに一日280トンの大根を洗う大型設備を受注しています。

小泉総理大臣の頃、小規模農業は組合などを結成し大型化して、そこに国から直接補助金を出す政策になりました。これを機会に私共は「全国区」になりました。今では、北海道で生産していないショウガやサツマイモなどの洗浄機も、北海道で培った技術で全国に製造販売しています。韓国・中国・台湾、そしてASEANの国々に輸出をするようになりました。

北海道の中心に位置する旭川の会社が日本の大型農業のスタンダードとして評価されています。

司会：有難うございます。今話題のOMO7の日生下（ひうけ）さん如何ですか？

日生下：全国に48名しかいない名前です。兵庫県城崎温泉生まれです。

旭川のメリットは、やはり北海道第二の都市、大きな地方都市ということです。観光では、旭山動物園という人気の施設があり、そして美瑛・富良野が近くにあります。更に北海道という一つの観光地にあることです。

司会：有難うございました。

原田：旭川の良いところは、旭川市が中核都市として、道北地区、オホーツク地区への玄関口にあることです。

もう一つ加えると、善意の人が多く心地よく暮らせる土地柄で、気持ちよく生きて行ける場所と思います。

司会：表さんは如何でしょうか？

表：旭川の良さを色々お話しいただき有難うございます。

旭川は、北北海道の扇の要（かなめ）に位置しています。人口は、今は33万9千人です。若い人が出て行って、旭川の北の高齢者層が入ってくるという都市構造になっています。旭川を如何に積極的に外に出してゆくか？政策的にアレンジしないと旭川が良くなっていかないと感じています。

旭川の良いところ

司会：旭川の特徴はご理解いただけたと思います。「ここが旭川の良いところ」といえるポイントを三つぐらいあげるとしたら何ですか。

日生下：三つのポイントは

①人の繋がり、人の温かさ

②町としてのバランス、近さ、何処にもない「自然」にすぐ行けるということ

③食べ物が美味しいということです。

今回ブランドを立ち上げるにあたってこの「人の繋がり」とか「人の温かさ」をすごく感じました。旭川大学の方々にご協力いただき、お客様を街の中にご案内していると、いつも出会っている近所の仲間として迎え入れてくれました。本当に人の温かさを感じます。街の中でしっかりとコミュニティがあるのは旭川の特徴です。私は「よそ者」ですが、とても親身になっていろいろな相談に乗って頂けました。

司会：ありがとうございました。

原田：三つのポイントは、

①災害が少ないこと

②自然と都市機能が両方あること

③旭川では、安く美味しいものが食べられる。

もう一つ「人」というテーマですが、私ども旭川信用金庫はお取引がある町「2市10町1村」と「連携協定」を結び、旭川市だけではなくて諸々の会議所等を含めた連携ができ上っています。連携する上ではリーダーのパワーアップがより必要です。特に旭川がリーダーで頑張ると旭川の良さがもっと活かせると思います。

司会：有難うございます。

佐々木：

①「旭川の人間は心優しく思いやりがある」昨年、旭川の「北海道ベトナム交流協会」を立ち上げた時点では60社でしたが、現在は90社になりました。

②食べ物が美味しい。旭川は北海道の中心に位置し新鮮な魚が集まってくる。農産品も一緒です。もっともっと旭川のアピールの仕方があるのではないか！それには、中央で活躍されている皆さんの一言が大きいです。

③災害が非常に少ない。私の会社は静岡の会社と「BCP契約」を結んでいます。災害が少ない町のモノづくりの会社が「メーカーの保証」なのです。旭川には、機械の高い技術力があります。是非、皆さんからモノ作りをやっているお知り合いに「旭川とBCP契約を結んでください。旭川に受け皿がありますよ。」と言って頂きたい。

旭川の改善点

司会：具体的なお話、有難うございます。次は、改善ポイントをお願いします。

原田：「旭川は頑張っているよね」という声をもう少し聞けるようになりたい。

「旭川での商売は難しい」という方が多いです。旭川は、一つの方向を決めて盛り上がって頑張る町になると良いと思います。

信用金庫は、最近は「地域をどう活性化していくか？元気づけられるか？」が仕事の中心になってきていま

パネリストのご紹介

佐々木通彦（ささき・みちひこ）さん
（株）エフ・イー　代表取締役社長

1955年旭川市生まれ、1978年金沢工業大学卒業後農業機械の設計会社に就職。28歳の時に父の経営の合板プレス機械の製造会社に転職したが、貿易自由化の影響で合板は東南アジアの安価な製品に押され、国内の合板製造会社は倒産を余儀なくされていた。父の会社もそのあおりを受け、経営がうまくいかず多額の借金を抱えていた。前職で得た機械設計の経験と知識を活かし、農業機械の製造会社に転換した。

現在では根菜類の洗浄選別機を中心に、国内をはじめアジア各国への輸出も行っている。近年は野菜の加工機械の開発製造も手がけ、新しい市場への販路も拡大している。また、旭川機械金属工業振興会会長や旭川高専振興会会長なども務め、地域の業界発展に寄与している。

日生下和夫（ひうけ・かずお）さん
星野リゾートOMO7 旭川 総支配人

1973年 兵庫県生まれ。実家は老舗の温泉旅館。近畿大学卒業後、公認会計事務所、国内外ホテルチェーン勤務を経て、2007年に星野リゾートに入社。島根、高知、静岡、栃木など全国のホテル・旅館5ヵ所の総支配人を歴任し、2017年4月に旭川グランドホテル総支配人に着任した。

翌2018年4月28日に星野リゾート4つ目のブランドOMO（おも）の第1号案件、『星野リゾートOMO7（おもせぶん）旭川』としてリニューアルオープンした。『寝るだけでは終らせない、旅のテンションをあげる都市観光ホテル』として、ホテル周辺のディープなエリアを紹介する『GO－KINJYO（ご近所）マップ』や旅先の友人ガイド『OMOレン

す。先ず我々市民が「旭川は良いところだ」という誇りを持つことが必要です。それを皆様方、東京の方が、特に声を大きくして周りの人に言って頂きたい。

もう一つは「楽しいことが旭川にはあり、是非、旭川に来てやってみませんか?」と言える町になりたい。「自分自身の生活は楽しく有意義だよ」と周りに伝えられるような町になればと思います。

司会：有難うございます。

佐々木：旭川市は、もっと長期的なビジョンを明確にし、そこに道標を立て「まちづくり」をしていくべきで、もっと強いリーダーシップで牽引して欲しい。

国際化が遅れています。昨日、旭川に来られた石垣市長から「旭川は飛行機の便数が一日10便。石垣は人口4万人位しかいないのに、34便飛んでいるよ」と言われた。旭川から外に発信するには、交通インフラは大切だが、今、国際線のビルを建てているけれど、その前にするべきことがあるのではないかな?せめて成田便が直接あればといつも思います。旭川から早い時間の便があれば、アクセスが良いのにと感じます。

もう一つ、旭川からの輸出梱包は、問題です。一回、機械を裸で苫小牧までもって行って、苫小牧で下し、燻蒸材を使って梱包し苫小牧からフェリーに載せる。結局、そういう事で国際化を目指していく中で、やはり一手間二手間かかり過ていると感じます。

▲エフ・イー製大根洗浄機は葉付き大根の葉を傷めることなく実にきれいに洗浄できる画期的な大根洗浄機です。

それともう一つ、「着る物」。札幌に「大丸デパート」の外商が旭川に常駐し結構売り上げを伸ばしています。是非とも旭川のランドマークとなるデパートが欲しい。

司会：ハイ、有難うございます。ずっと外を回ってこられた日生下さん如何ですか?

日生下：今はもう住んで二年経つので言い難いですが、続けて観光の立場からお話します。

外からこられた人が魅力的に思って頂くには、やはり旭川のブランドだと思います。先ず認知。「もう一度行ってみたい」というリピーターロイヤリティに重なる。ただの通過型観光だと町の魅力を伝えるチャンスがありません。

これは定住や移住にも繋がります。ブランドに対してシッカリと市が認知を高めるような検討をして頂くとホテルに恩恵があります。

もう一つが、「通過型から拠点型」に観光の流れが変わってきています。

▲OMO7の変幻自在なロビーやラウンジは、遊び心あふれる特別な場所。多彩な楽しみ方と集いのかたちは思わずシェアしたくなる空間です。

都市に泊まってその街のディープな食を楽しむことが、旭川でも行われることが大切です。そうすれば、北海道の観光の拠点として旭川を選んで頂けます。是非、よろしくお願いします。

司会：有難うございます。ここは表さん、宜しくお願いします。

表：指摘されたことは充分理解しています。ただし、行政は、先ず町の全体の市民が安全で安心して暮らしていけることを基本にしなければいけません。それから道北の町々に対しても「まちづくり」として責任を負って行かねばならないことが一方ではあります。

それから生活保護世帯の方々が、大体1万3千人、1万世帯前後、旭川にいます。そういった人たちを抱えながら、言われたことは、やって行かねばならない。両方抱えてやっています。

それで、一つだけ兆しを申し上げると、旭川は春夏秋冬がハッキリしていて、雪が降るということで、逆に冬で寒くて…というところを逆手に取った企業が進出してきています。

セブンイレブンで一番サラダを売っている会社が進出しています。このようなことが、ここ4～5年で徐々に体制を整えてきています。

それから、観光については、観光振興機構という大きな北海道の組織ができて、その旭川版ができました。スキー場を連携しようという視点で道北の総元締めに旭川がなり頑張ろうとしています。お三方が言われたことは、全てそのとおりと認識しています。

旭川未来会議

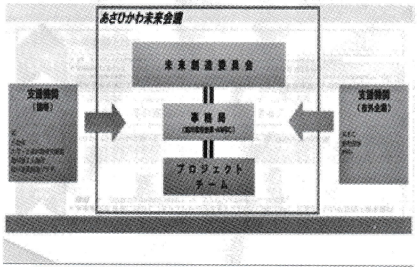
▲旭川市の周辺にはカムイスキーリンクスや旭岳、星野リゾート トマムなど多くのスキー場が。

司会：有難うございます。官民一体となって町の発展に頑張って頂きたい。今後とも宜しくお願い申し上げます。もう一つのお話として、ここ1～2年前で「旭川未来会議」が発足したと聞きました。

原田：これは公的なモノではなくて、旭川信用金庫中心に旭川のことを真剣に考え行動に移していこうという目的で2017年5月に設立しました。メンバーは、12の民間企業、業種は全部バラバラでうるさい社長を集めました。その中に、今日いらしているエフイーの佐々木さんとササキ工芸の佐々木社長もいらっしゃいます。それに「学」ということで旭川ウィルビーイングコンソーシアムという組織。旭川医大とか旭川大学とか教育大学、高専といったところが加盟している組織です。

旭川信用金庫と旭川ウィルビーイングコンソーシアムが事務局になって12の企業の経営者の方たちが中心になってスタートしました。テーマは、先ず「産・学・金」という民間が何を考え

（次頁に続く）



▲「あさひかわ未来会議」資料抜粋

▲あさひかわ未来会議の風景

ジャー』など新しい取組みに挑戦している。

趣味は旅行とまち歩き。現在は新しい旭川の魅力を発掘中。

原田直彦（はらだ・なおひこ）さん
旭川信用金庫　理事長

1956年『でんすけすいか』の産地、上川郡当麻町生まれ。旭川東高を経て立教大学法学部卒業。末っ子で長男であったため地元に戻り就職しようと、姉と入れ替わり、旭川信金に入庫した。入庫後は営業畑を歩み、3店舗の支店長を経て、理事となる。本店長を経験した後、2013年6月理事長に就任。翌2014年が創立百周年という大きな節目の年だった。

お客様とより密着し、金融以外のことにも積極的にコンサルのできる職員の養成と、支援体制の構築に取り組んでいる。

趣味は小学校5年から始めたソフトテニス。現在、旭川ソフトテニス連盟会長。

表　憲章（おもて・のりあき）さん
旭川市副市長

1948年旭川市生まれ。旭川東高を経て名城大学法学部卒業後、1973年旭川市役所に入る。社会福祉事務所などを経て企画調査課課長、企画財政部長などを歴任した。

総合政策部長を経て2008年旭川市副市長に就任。2016年12月から3期目の副市長に就任した。

【お願い】
実際の皆さんのご発言は、ウィットに富んだ楽しいモノでしたが、紙面の都合で大幅に省略させて頂いたことをご了承ください。

てどうできるかということを考えていくことにしました。官には「ほぼ決めた事」を支援して頂く役割をお願いしようと決めてスタートしました。既に1年5ヶ月経ち、やっと最初にやる事が決まり今月スタートするところです。

その中身については「旭川を若者が中心となって街中の賑わいを実現させよう」ということをテーマにあげました。「街中ストリート作り」と銘打って、先ず若者が「能動的に考えて行動して事を起こそう」「その応援を周りでやっていこう」という事を基本テーマにしました。

先ずは「旭川中心部でパフォーマンス等の人で賑わう街中づくり」という事に加えて「商いで賑わう街中」という事。これを最大のテーマとしてスタートを切ります。

日本財団の「わがまち基金」の補助を受け、旭川市を始めとした官の方にもご相談し、許認可等でもご支援を頂いて動き始めました。

司会：「うるさい社長を集めた」と伺ったのですが、代表として佐々木さん、何かございますか？

佐々木：「烈火七夕まつり」の熱気です。ここにいる観光コンベンション協会の副会長の長谷川さんや水野染工場の水野さんらと私が青年会議所時代にあの祭りを作りました。

その時に青森のねぶた！あの土着性のある祭があれば故郷を思って、その時期だけはと故郷に帰ってくる奴だっているぞ！こういう祭を作ろう！と、今から28年前に「十年経ったらこれが、親父が作った祭りだぞ！」と言えると思ったけれど、今は孫に「ジイちゃんが作った祭りだ！」と言えるようになりました。

ここにいるササキ工芸の佐々木さんや酒屋の山田君が旭川青年会議所の中心になって、28回継続しているお祭りです。集まっている若者！こういうパワーがまだ旭川にあるのだ。昨年から若い人たちを中心に2千500人からのアンケートを実施しました。「未来会議」は、まさしく若者中心の考えが形になることを目指しています。

司会：有難うございます。特に最後の「未来会議」のお話を伺い色々な方たちが努力され、街を維持発展させるという意気込みを感じました。

もっともっと、たくさんのご意見を頂きたいところですが、この後の懇親会の席で、是非、個人的に質問やご意見ある方は色々とお話して頂ければと思います。これでパネルディスカッションを終了します。有難うございました。（拍手）

『旭川市の移住』について

司会：追加があります。旭川の人口増加策に関し、ゑびす屋（株）のディレクターの石田さんをお招きしています。

石田：こんばんは！旭川青年会議所では移住促進に向けて市と共同で様々な取り組みを行っています。

●一つ目は、移住体験ツアーがあります。詳しくは、パンフレットとWEBサイト「TRIPKAMUI」からもご覧になれます。周りに旭川を体験したい方がいらっしゃったら、是非ご紹介ください。二泊分までの体験料と宿泊費はこちらで負担します。最大の関門「仕事」に関する「仕事体験」以外のツアーも、ご希望にあわせて組めます。

●二つ目は、「移住の相談窓口」を募集しています。東京と旭川の両方を知っている方からの情報は移住希望の方も旭川をより身近に感じ安心感が増します。

●パンフレットをお店や会社に置いて頂くなど皆さまのお力をお借りして更なる移住促進に努めたいと思います。

司会：有難うございました。「旭川は良い街だ。住むには良い街」と我々自身が本気に思って伝えていけば、良いと思います。これにて第一部を終了します。パネリストの皆さんにもう一度盛大な拍手をお願いします。（拍手）

《この他に首都圏でも旭川家具のショールーム「カンディハウス」東京での説明会や旭川の暮らしPRイベント「SIMPLE LIFE」（東京タワー）などが開催されました。詳しくは旭川市HP内の『移住促進』をご参照ください》

tripkamui

▲Tripkamuiのロゴ。（Facebookページより）

旭川からの話題／旭川出身者の活躍

NHK「ブラタモリ」で旭川が紹介されました！

ついにブラタモリが旭川市にやってきました。テーマは「北のトップランナー」。昨年十一月に放送されました。大原野だった旭川市がどうして北のトップランナーに生まれ変わったのかをタモリさんがブラリと歩きながら紹介してくれました。タモリさんが最初に訪れたのは屯田兵が暮していた住宅。そのあと神居古潭、旭橋、常磐公園とめぐり旭川の歴史を探ってくれました。最後に旭山動物園を訪問。地形を分析してくれました。

▲タモリさんと林田理沙アナウンサー。
旭川市役所facebookより引用

旭山動物園が行きたい動物園ランキングで一位を獲得！

昨年、朝日新聞が行なった「この秋行きたい動物園ランキング」、日本経済新聞が行なった「冬こそ行きたい動物園ランキング」において、旭山動物園に全国から熱い支持が寄せられ、どちらも堂々の第一位を獲得しました。行動展示における圧巻の臨場感が幅広く評価されました。

▲毎年大好評の冬の風物詩「ペンギンの散歩」 積雪が無くなる3月中旬まで毎日実施されます。
旭山動物園のホームページから引用。

TEAM NACSの一員 音尾琢真さん43歳 旭川西高校出身（44期）です

旭川西高では男子新体操部に所属。北海学園大学在学中に、現TEAM・NACSのメンバーと出会う。リーダーの森崎博之さんも旭川西高出身です。主に北海道で「水曜どうでしょう」などで絶大な人気を誇っていましたが、2005年からは全国に活動を広げ、舞台・映画・ドラマと活躍中です。2019年4月からのNHK朝ドラ「なつぞら」に出演が決まっています。

▲音尾琢真さん。
TEAM NACSオフィシャルサイトより引用。

ご本人からは昨年『役者人生、もう25年になります。一昨年のTBS「陸王」で全国的に顔を知ってもらえる様になりました。反応がすごいです。AIR・DOの仕事も10年程担当。飛行中、私の声が流れています。これからは、ますます良い作品、良い役でより知ってもらい、大泉洋を越えられる様な役者になりたいです。（笑）』とのコメントを頂きました。

今後の活躍がますます楽しみです。

▲「なつぞら」
NHKホームページより引用。

ファッションモデルのemma（エマ）さんは旭川市出身です

エマさんはファッション雑誌ViVi専属モデルとして東京ガールズコレクションをはじめ数多くのファッションショーやCM・広告などでも大活躍中です。

2017－18年はTV番組「A－STUDIO」の9代目アシスタントに抜擢されるなどモデル以外でも注目され話題となっています。

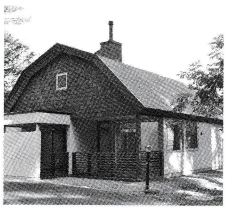
▲emmaさん
スターダストプロモーション提供。

三浦綾子記念文学館が開館20周年を迎え、北海道遺産にも選定される

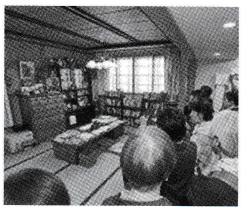
三浦綾子記念文学館が、昨年開館20周年を迎え数々の記念事業が行なわれました。その一つとして、昨年9月29日に三浦綾子さんの自宅書斎を移設した分館がオープンし、道内外から多くのファンの方が続々と訪れました。

綾子さんが口頭で文章を語り、夫の光世さんが書き取る「口述筆記」の書斎として有名です。また文学館では分館の開館に合わせ、より臨場感をもって文学館を楽しめるように専用のアプリをスマートフォンに入れると動画が映し出されたりする機能も導入しています。

さらに昨年11月にはNPO法人北海道遺産協議会が北海道命名150年を記念して行なった第三回選定にて三浦綾子記念文学館及び外国樹種見本林が北海道遺産に選定されました。旭川家具も同時に選定されています。



▲完成した三浦綾子記念文学館分館の外観。木造平屋建130平方メートルの建物で、本館とは屋根付きの通路でつながっています。



▲分館内に移設された書斎に見入る見学者。12畳の和室で本棚や机など当時のままを忠実に再現。展示室にはこの他生原稿や創作ノートなど約20点が常時展示されています。

旭川東高校　音楽部　合唱全国大会でダブル受賞！

創部90年以上の伝統ある合唱団、旭川東高音楽部（33人）が昨年10月、合唱の二大コンクールとされるNHK全国学校音楽コンクール（Nコン）と全日本合唱コンクール全国大会にダブル出場し、それぞれ銅賞、銀賞に輝きダブル受賞という快挙を成し遂げました。おめでとうございます。

▲Nコンは12年ぶり、全日本は18年ぶりの全国出場。2年前から指揮や伴奏も生徒が務め、練習も運営も生徒が主体となって進めてきました。和気藹々とした練習の中で育まれた、積極的で自由な音楽を全国の舞台でも響かせました。

旭川大学高校　野球部　夏の甲子園出場も惜敗

北北海道代表として全国で一番に名乗りを上げ、大会2日目に長野県代表佐久長聖高校と対戦。8回表に逆転されたものの、旭川大高は粘りを見せ9回裏に一点をかえし同点に。延長12回終了時点で4対4で決着が付かず、甲子園で初のタイブレークに突入しました。残念ながら延長13回惜しくも敗戦しましたが、見事な戦いぶりで甲子園に新風を吹き込みました。

旭川実業高校　サッカー部　全国高校サッカー選手権で惜敗

年末年始に行なわれる全国大会に三年連続七度目の出場を果たしましたが二回戦で帝京長岡（新潟県）に惜敗。大会史上最多の19人目までもつれ込んだ歴史的なPK戦の末、あと一歩及びませんでした

映画監督　白石和彌さんの作品が次々公開されています

旭川西高校の出身の映画監督白石和彌さんがメガホンを取り、音尾さんも出演した映画「孤狼の血」や「止められるか、俺たちを」が昨年公開されました。また香取慎吾さんが主演で白石監督と初タッグを組んだ宮城県石巻市が舞台の　喪失と再生をテーマに掲げた重厚な人間ドラマ「凪待ち」や「麻雀放浪記2020」が今年公開予定となっています。1月にはブルーリボン賞監督賞を2年連続で受賞。ますますの活躍に注目です。

▲白石和彌監督。映画.comホームページから引用。

俳優・監督で注目を集めている品田誠さんは旭川市出身です

1992年生まれ。旭川実業高校卒業後、道内の大学に入学しますが俳優になるため中退し上京。2013年俳優デビュー。　現在、俳優や監督として活動中です。昨年の7月、8月に池袋シネマロサの今後の活躍が楽しみな俳優にスポットを当てる企画「The　face」で記念すべき初回に「品田誠特集」が組まれ出演・監督作品が上映されました。また札幌、旭川でも特集上映会「品田誠映画祭」が開かれるなど注目を集めています。

今後の活躍が大いに期待されます。

▲映画「恋愛依存症の女」（2018年）のひとこま。映画.comホームページから引用。

東京旭川会の活動を報告します

東京旭川会では会員相互の懇親を深めることを目的に様々な活動を行っています。皆様の参加をお待ちしています。お問い合わせは事務局までお願いします。

●第29回郷土訪問の旅を実施しました

昨年6月14日10時半に旭川駅前に参加者12名が集合。旭川市職員の方とともにバスに乗車し、先ずは三浦綾子記念文学館を訪問。

その後、一昨年の総会でパネルディスカションにご登壇いただいた高橋仁美さんが女将を勤める扇松園にて西川市長はじめ旭川市の方々と昼食会。昼食後は井上靖記念館、一昨年の第41回総会でパネルディスカッションにご登壇いただいた佐々木社長経営のササキ工芸を訪問。夜には旭川市関係者との懇親会で充実した故郷訪問の旅は終わりました。お世話になりました旭川市の関係者の皆様に感謝致します。

▲三浦綾子記念文学館では本館隣に開館20周年を記念した分館が建設中でした。
参加者は記念館を見学後、三々五々見本林の散策を楽しみました。

▲井上靖記念館では井上靖さんのご長女、浦城幾世さんのお出迎えをうけ直々に館内をご案内して頂きました。

●聖イグナチオ教会・迎賓館を見学してきました

昨年4月19日に13名の参加を得て行いました。聖イグナチオ教会では奉仕の女性に内部を案内していただきました。次に迎賓館に移動。迎賓館入口の予約者通路をスムーズに抜け、持ち物検査も全員パス。建物の内部では、天皇皇后両陛下と各国元首、あるいは各国首脳との会食、懇談の間など枢要な場所を通り抜け、建物の外へ。国宝級の噴水があるという主庭園を見学しました。最後に中華料理を堪能しお開きに。天気に恵まれ楽しい一日でした。

▲迎賓館は本館を含む付属設備や主庭噴水池、階段などが国宝に指定されており館内の撮影は禁止されています。館内を見学後建物の正面前庭に出て参加者一同で記念写真を撮りました。

●ふるさと納税秋祭2018に参加の旭川市を応援

ふるさと納税サイト『さとふる』が主催する一日限定のふるさと納税PRイベントが昨年10月13日に二子玉川ライズで開催されました。旭川市がPRのために参加するとのことで応援に駆けつけました。

▲当日の旭川市ブースにて。旭川市関係者の方と東京旭川会役員と。

＊東京旭川会のホームページもご覧ください。
（「東京旭川会」で検索し、東京旭川会―県民.COMを選択）

東京旭川会第42回総会・懇親会 出席者一覧（五十音順）

【出席者】❖は旭川観光大使の方です。

あ
浅井 末歩
朝妻 久実❖
浅沼 雄太
朝比奈康博❖
荒川 繁
砂澤 祐子
石崎 智嗣
石塚 創也
板岡 功雄
井上 賢
今井 昭吉
井村 学
岩田 公雄❖
岩渕 勝美
潮 洋平
内山 雄介
浦城 幾世❖
海老澤美智子
遠藤 哲
大友 勝美
大場 孝仁
大平 和幸
岡崎 友典❖
岡村 淳子
折登 紀昭
柿林 博司
片桐 紀恵
加藤 桂子❖
加藤 文哉
金子 登
川端下ヨシミ

き
菊地 勝昭
木嵜 秀夫
木島 英人
北の富士勝昭❖
工藤 英明
窪田 敬昭
小澤 直子
小林 信雄
小林 良正
小松 仁志
近 信明
近野 光佑
齋藤 弘明
佐々木隆博
定岡 雅人
佐藤 幸博
澤田 研二
佐々木雄二郎
重國麻也子
島田 嘉明
清水 陸男
白倉 伸也
澁川 義幸
杉本 一美
鈴木 啓正
宗万 裕❖
高木 宏明
高島 芳美
高瀬 博
高橋 照美❖
高橋 文子

た
田中 富雄
丹保冬司夫
綱島 正寛
寺島喜久男
内藤ひろみ
中川 哲雄
仲野 博志
中野 年
中村 園
梨木 滝也
那須 利雄
並河 典子
西谷内力世❖
野作 雅章
長谷川幸恵
浜崎 泰子
原 公朗
原 卓徳
原田 真澄
東出 康宏
樋口 嚴
平本 信夫
廣野 貴之
福田 淳一
藤井 邦夫❖
藤井美砂子
船山喜美子
星 希美
堀田 康雄
堀内 理恵
本田 蒼風

ま
松倉 一行
松島 蔦
松田 修
松田 広昭
松原 愛❖
水口 國雄
水野 弘敏
三井 尚美
三好のぶちか
武藤 大輔
武藤 亮太
村上 正秀
森 由美子
安井 規雄
山川 智
山口 哲男
山崎 浩之
山崎 正之
山崎 摩耶
山田 光二
山田 大生
山原 正博
山本 晃史
湯佐 富治
吉田 達郎
米陀 徳光
若原りょう❖
渡辺 韶子

【ご来賓】

◆旭川副市長……表 憲章 様
◆旭川市議会議長……笠木かおる 様
◆旭川商工会議所副会頭……松野 和彦 様
◆旭川観光コンベンション協会副会長……長谷川力也 様
◆旭川市経済部長……佐藤 幸輝 様
◆旭川市議会事務局議会総務課長……冨田 康文 様
◆旭川市東京サテライトオフィス所長……白木 義宏 様
◆旭川市総合政策部秘書課……間所真沙美 様
◆旭川青年会議所会員……石田 一貴 様
◆えびすけ㈱ 北海道ふるさと会連合会副会長……五十嵐邦男 様
◆北海道東京事務所長……近藤 晃司 様
◆北海道新聞社東京編集局長……近藤 浩 様
◆サッポロビール㈱ 法人営業部……栗原 史 様
◆㈱エフ・イー 代表取締役社長……佐々木通彦 様
◆星野リゾートOMO7 旭川総支配人……日生下和夫 様
◆旭川信用金庫理事長……原田 直彦 様

＊【予告】本年度第43回の総会・懇親会は、10月26日(土)午後5時からの予定です。

【ご協賛・ご協力御礼】

旭川市
旭川市議会
旭川商工会議所
（一社）旭川観光コンベンション協会
㈱旭川振興公社
旭川空港ビル㈱
（一社）旭川物産協会
㈱旭川食品
㈱ARDO
㈱オーシャン
男山㈱
今野醸造㈱
㈱ササキ工芸
サッポロビール㈱
三葉製菓㈱
㈱煎菓亭鈴木製菓
高橋製菓㈱
㈱壺屋総本店
㈱東京キョクイチ
ハイアットリージェンシー東京
㈱福居製餡所
㈱藤井
藤原製麺㈱
北海製麺㈱
㈱北海道日本ハムファイターズ
㈱明治
㈱米谷産業
㈱ロバ菓子司

【ご寄付御礼】（敬称略）

阿部 紀彰
荒川 繁
浦城 幾世
海老澤 美智子
太田 孝仁 征
大場 孝仁
尾崎 千恵子
折登 紀昭
加藤 桂子
菊地 勝昭
小松 仁志
近 信明
佐藤 幸博
澤田 研二
杉本 信利
瀬川 隆幸
宗万 裕
高木 宏明
高橋 文子
綱島 正寛
並河 典子
内藤 裕子
納谷 廣美
西谷内 力世
原 公朗
樋口 嚴
平澤 民義
藤井美砂子
藤井美 桂子
水口 國雄
三井 尚昭
宮川 秀史
安井 規雄
山口 哲男
山崎 正之
山原 正博
米陀 徳光
渡辺 韶子

東京旭川会の役員構成

（'18年12月1日～'20年11月30日）

■会長 加藤 桂子
■副会長 荒川 繁
海老澤 美智子
大場 孝仁
小松 仁志
並河 典子
山口 哲男
高木 宏明
三井 尚美
山原 正博
■事務局長 樋口 嚴
■常任幹事 奥山 好美
柿林 博司
木島 英人
小林 信雄
佐藤 幸博
澤田 研二
杉本 一美
高島 芳美
東出 康宏
宮川 秀史
山川 智
野作 雅章
安井 規雄
■監事 原 公朗
高橋 照美
朝比奈 康博
西谷内 力世
■名誉顧問
■顧問
■相談役

新規会員を募集中！

お友達、お知り合いで「東京旭川会」に関心のある方がいらっしゃいましたら事務局までご連絡ください。会報「ななかまど」と入会のご案内をお送りします。

編集後記

本誌がお手元に届く頃には新たな元号が発表されていることと思います。「ななかまど」は東京旭川会設立の2年後（昭和54年、1979年）に創刊されました。以来、長きにわたる諸先輩のご尽力により続いてきました。

これからも、時代の変遷に伴いホームページの刷新など色々な広報の方法を考えながら、東京旭川会が幅広い世代の皆さまから愛される一助となるように頑張りますので宜しくお願い申し上げます。今回、誌面作成に当たりご協力頂いた皆様に改めてお礼を申し上げます。（小松）

＊＊＊

三回にわたる「旭川を知る」で若者が中心となっての街中の賑いの実現、観光ではスキー場の連携などで道北の総元締で頑張る姿勢など、いろいろな試みを知りました。

映画界では白石監督が二年連続でブルーリボン賞の監督賞を受賞し、主演女優賞、助演男優賞も彼の作品での受賞です。又日本アカデミー賞では「孤狼の血」で西高18期の浦出和治さんが録音賞を受賞しました。監督作品の常連である音尾琢真さんとは西高の同窓です。旭川舞台の映画を是非観たいと思います。（並河）

＊＊＊

田舎の母が一人暮らしになり、身体が弱ったこともあって、昨年の4月から当麻と旭川を月の半々ずつの2拠点居住の生活に代わりました。以前と同じようなカタチでは、「ななかまど」の編集になかなか関われなくなりましたが、その分旭川で様々な活動に取り組む人との出会いが増えました。これからはそんな人たちからの情報も編集に役立てていきたいと思います。（高島）

＊＊＊

NHKのブラタモリで旭川が取り上げられました。どこが紹介されるのか、わくわくしながらテレビを見ていました。知らなかったことも多く紹介され、旭川という街を再認識しました。

今回も総会や、「ななかまど」の編集を通して旭川にゆかりのある数多くの方々が様々な分野で大活躍している様子に触れさせていただきました。毎年新たな発見や気づきがあり刺激をもらっています。（東出）